

情報化社会と子育てに関する研究 1

—— 子育て層（20 代、30 代）の育児観と情報環境 ——

母子保健研究部 齊藤 進

小山 修

加藤忠明

高野 陽

研究企画・情報部 中村 敬

情報教育研究所 山岡 テイ

【要 約】

情報機器の子どもに与える影響や、子育てへの利用可能性について検討し、今後の情報機器の利用方法についての方向を明らかにすることを目的に行なった。20 代から 30 代の既婚者で子どもがいる男女について、育児観や情報関係の使用状況を分析した。育児観についてまとめると、休日には子どもと過ごす者が多く、食事は家族一緒が楽しいと考えており、子ども中心の生活が伺え、子育てについては、プラスのイメージをもっていた。

育児環境や公的サービスについては、改善の必要性が示唆された。情報環境では、携帯電話または PHS・ポケベルの普及度が高く、コミュニケーション形態の変化がうかがえた。情報源を「友人」と回答する者の割合が多いが、今後はインターネット等の新しいメディアの活用が期待される。

今後は、情報化社会におけるコミュニケーション形態の急激な変化を踏まえて、情報提供のあり方に関する指針の作成を推進する必要があると考えられる。

【見出し語】 情報化社会 インターネット 子育て コミュニケーション

A Study on Child Rearing in the Information-oriented Society

Susumu SAITO, Osamu OYAMA, Tadaaki KATO
Akira TAKANO, Takashi NAKAMURA, and Tei YAMAOKA

Summary: The object was how to use better the information machine in future. Not only the influence of the machine to child but also the possibility of use toward child rearing were investigated. The married men and women of twenties and thirties who had child were studied in questionnaire about their view of child rearing and about their situation to use the information machine. Many of them had a good time with their child in holiday and enjoyed the meal with their family. The necessity of the improvements about the environment of child rearing and about the public services was suggested. The change of communication is expected because half of them had the carrying telephone or PHS/pager. The main source of information was their friends. The practical use of new media of Internet etc. is hoped to be improved in future. The frame of it is needed to be made in the guide and the useful information must be sent in it.

Key Words: Information-oriented society, Internet, Child rearing, Communication

I. 目的

急速に普及・発展しつつあるパソコンやインターネット等の情報機器が子どもに与える影響や、子育てへの利用の可能性について検討し、子育てにおける情報機器の望ましい利用の仕方や今後の情報機器の利用方法についての方向を明らかにすることを目的とした。

II. 対象と方法

調査対象は、既婚者で子どもがいる全国の20代から30代の男女で、企業、市町村、大学等を通じて調査票を配布、回収し、記載不備を除外した2284人を分析対象とした。

主な調査内容は、①対象者の属性（性別・年齢・学歴・居住地・住居）、②生活一般の状況（睡眠・食事・余暇）、③出産と子どもの状況（初婚年齢・第1子出産年齢・子ども数・子どもの年齢）、④子育て観（子育て観・理想の子ども数）、⑤育児環境についての意見、⑥公的サービスに対する希望、⑦情報環境（コンピュータゲームとビデオ鑑賞、OA機器とストレス、通信機器の使用状況）、⑧心配事の相談相手と情報源についてである。集計・解析はパソコン統計ソフトSPSSを使用した。

III. 結果

1. 回答者の属性（性別・年齢・学歴・居住地・住居）

回答者の年齢構成については、年齢35～39歳が44.4%と最も多く、次いで30～34歳が40.1%、以下25～29歳、20～24歳の順で、30代が約8割を占めていた。男女別では、男性は、35～39歳（45.2%）と30～34歳（43.9%）が約9割を占めた。女性では、35～39歳（43.9%）が最も多くで、次いで30～34歳（38.1%）、以下25～29歳（16.6%）、20～24歳（1.4%）であった。女性は男性に比べて若干若い人が多かった（表1）。

学歴は、高校卒業者（41.7%）が最も多く、次いで大学卒業者（27.8%）、以下、短大（14.3%）、専門・専修学校（12.4%）、大学院（2.2%）中学校（0.7%）の順であった。男女別では、男性は、大学卒業者（67.8%）が一番多く、以下、高校（17.1%）、専門・専修学校（6.0%）、大学院（5.9%）、短大（1.4%）の順であった。女性は、高校卒業者（54.2%）が半数以上を占め、以下、短大（20.8%）、専門・専修学

校（15.6%）、大学（7.5%）、中学校（0.7%）の順で、男性に高学歴者が多かった（表2）。

職業は、勤め人（66.6%、男性62.6%、女性68.7%）が最も多く、男女別では、男性は勤め人に次いで管理職や経営者が約3割で、女性（9.8%）より多かった。女性は、専業主婦（11.8%）が少しいたが、男性と同様に勤め人が多かった（表3）。

居住地をブロック別にみると、関東（31.9%）、中部地区（31.5%）が多く、他は北海道・東北（13.4%）、九州・沖縄（10.0%）、中・四国（6.7%）、近畿（6.3%）であった。これを男女別にみると、男性は関東地区（57.8%）が多く、女性は中部地区（41.3%）が多かった（表4）。

住居形態は、集合住宅（39.5%）に比べ一戸建（57.8%）が多かった。男女別では、男性は集合住宅（64.2%）が多く、女性は逆に一戸建（71.4%）が多かった（表5）。

自分（配偶者）の親との同居形態は、「同居していない」（66.9%）が多く、「配偶者の親と同居」（22.2%）、「自分の親と同居」（9.3%）は少なかった。男女別では、男性は「同居していない」（83.6%）がほとんどを占め、「自分の親と同居」（10.7%）、「配偶者の親と同居」（3.9%）は少なかった。女性は、「同居していない」（58.4%）が男性に比べ少なかったが、「配偶者の親と同居」（31.4%）は逆に割合が高かった（表6）。

2. 生活一般の状況（睡眠・食事・余暇）

睡眠時間は、「ほぼ足りている」（37.7%）、「すこし足りない」（30.7%）、「足りている」（22.5%）、「足りない」（9.0%）の順で、約6割は足りていると回答していた。男女別でも、「ほぼ足りている」（男性35.3%、女性38.9%）が多く、次いで「すこし足りない」（男性33.7%、女性29.2%）、「足りている」（男性19.7%、女性24.0%）の順であった（表7）。

食事についての考えを表8、表9に示した。「家族と一緒に食事をするのは楽しいと思う」は、ほとんどの者が「そう思う」（91.3%、男性92.6%、女性90.7%）と回答した。次に、「一人で食べる食事は煩わしくなくてよいと思う」では、「そう思わない」が5～6割（全体53.9%、男性58.3%、女性51.7%）で「そう思う」者は少なかった。

余暇を過ごす相手は、「子ども」（91.8%）が最も多く、次いで「配偶者やパートナー」（68.9%）、他は少なかった。男女別でも「子ども」（男性89.7%、女性92.9%）、配偶者やパートナー（男性76.1%、女性65.20%）が多く、他は少なかった（表10）。

3. 出産と子どもの状況(初婚年齢・第1子出産年齢・子ども数・子どもの年齢)

初婚年齢は、25～29歳(45.2%)、20～24歳(44.1%)で約9割を占め、以下、30～34歳(7.0%)、19歳以下(2.8%)、35～39歳(0.6%)であった。男女別では、男性は25～29歳(68.8%)が最も多く、以下20～24歳(15.5%)、30～34歳(14.1%)、35～39歳(0.9%)、19歳以下(0.4%)であった。女性は20～24歳が最も多く58.6%で、次いで25～29歳(33.3%)、19歳以下(4.0%)、30～34歳(3.4%)、35～39歳(0.4%)の順であった(表11)。

女性の第1子出産年齢は、25～29歳(47.6%)、20～24歳(39.4%)、30～34歳(9.8%)、19歳未満(1.6%)、35～39歳(0.7%)の順で、29歳までに出産が約9割であった(表12)。

現在の子どもの数は、2人(48.4%)、1人(31.0%)、3人(18.7%)、4人(1.2%)、5人(0.1%)の順であった。男性では1人(44.7%)、2人(44.4%)が多く、女性では2人(50.5%)が半数を占め、次いで1人(24.0%)、3人(23.1%)であった(表12)。

現在の子どもの年齢は、小学生(45.1%)最も多く、次いで4歳～就学前(36.9%)、2～4歳(35.5%)、2歳未満(26.3%)の順であった。男女別では、男性は2～4歳(41.7%)、2歳未満(39.6%)が多く、次いで4歳～就学前(31.8%)、小学生(31.4%)であった。女性は小学生(52.1%)が最も多く、4歳～就学前(39.6%)、2～4歳(32.9%)の順で、男性より子どもの年齢は少し高い傾向があった。(表14)。

4. 子育て観(子育て観・理想の子ども数)

子どもを産み育てることについての考えをたずねると「私は、自分の子どもはかわいいと思う」(96.5%)、「子育てには面白いことや発見がある」(96.3%)、「子どもは、人々にうるおいや活力を与える存在である」(94.7%)が多く、次いで「子どもは、社会の次世代の担い手として大切である」(85.7%)、「私は、子どもが好きである」(75.1%)、「子どもは、自分の生命を伝える存在として大切である」(70.2%)、「子どもの世話の大部分は、男親もできる」(63.1%)、「子育てによって、親は犠牲になるものが多い」(52.4%)、「子どもを生み育ててこそ、人として一人前である」(47.5%)の順であった(表15)。

男女別では、第1位から4位までは同様に、「私は、自分の子どもはかわいいと思う」(男性96.9%、女性96.4%)、「子育てには面白いことや発見がある」(男性96.2%、女性96.3%)、「子どもは、人々にうるおいや活力を与える存在である」(男性

94.7%、女性94.8%)、「子どもは、社会の次世代の担い手として大切である」(男性89.2%、女性83.9%)の順であった。男女で異なっていたものは、「子どもの世話の大部分は、男親もできる」(男性46.7%、女性71.4%)であった。他の内容は、ほぼ同傾向を示した。

理想の子ども数は、全体では3人(44.2%)と2人(40.5%)が大部分を占め、1人や4人以上などは少なかった。男女別では、男性が2人(49.3%)、3人(39.8%)の順で、女性では3人(46.4%)、2人(36.0%)の順であった(表16)。

5. 育児環境についての意見

育児環境については、全体で肯定率が高かった項目は、「子ども産業(紙おむつ、離乳食、育児用品など)が盛んになってきたので、育児は以前より楽になった」(86.1%)、「幼いころから習い事や塾に通わせることが、過熱しすぎている」(82.9%)、「親が安心して、子どもを遊ばせることのできる所が少なくなってきている」(81.7%)、「子どもの遊びでコンピュータゲームなどの一人遊びが増えたことは、子どもにとって好ましくないことだ」(80.3%)、「仕事と育児を両立させるための、保育制度・育児休業制度などが十分でない」(78.7%)などで、7～8割であった。次いで5～6割の肯定率は、「乳幼児を連れて外出するには、交通機関や公共施設に不都合が多い」(62.7%)、「子どもの世話をしながら働き続けると、多くの場合仕事上の不利益をまねく」(50.2%)、「子育てをする親や子ども達に対して、思いやりや共感性のない人達が多い」(49.1%)の順であった。また、肯定率の低い項目は「健診や保健指導サービスの内容がよくなった」(37.8%)、「保育所や児童館などの児童福祉施設が整ってきた」(34.2%)であった(表17)。

男女別では、高い肯定率を示した項目は、多少順位が変わるものの全体として同傾向を示した。5割前後の肯定率の項目は、若干男性の肯定率が高いもののほぼ同様の傾向であった。肯定率の低い「健診や保健指導サービスの内容がよくなった」、「保育所や児童館などの児童福祉施設が整ってきた」は、若干女性の肯定率が高いものの、やはり全体と同様の傾向を示した。

6. 公的サービスに対する希望

エンゼルプランの内容を9項目に分け、力を入れてほしい施策を3つ選択してもらった結果を表18に示す。最も多かった項目は、「子育てにともなう経済負担の軽減(保育料、児童手当、税制上の措置)」(77.6%、男性76.5%、女性78.2%)で、次いで、「ゆ

とりある学校教育の推進（環境整備、受験戦争の緩和など）」（42.3%、男性 42.0%、女性 42.5%）、以下「保育施設・保育サービスの充実」（39.1%）、「育児休業中の所得保障の充実」（33.3%）、「子どもに安全な遊び場や文化・スポーツ・自然などの活動体験メニューの充実」（30.4%）、「育児期間中の勤務時間の短縮や全体の労働時間の短縮」（27.6%）、「安心して子どもを生み育てることのできる母子医療・健康支援体制の充実」（20.0%）、「良質な住宅の供給（職住接近、子育て家族向き）」（15.0%）、「家庭教育や子育ての支援（相談体制）」（6.3%）の順であった。

男女別では、第1位、2位は同じであったが、「育児休業中の所得保障の充実」（男性 17.6%、女性 41.3%）、「育児期間中の勤務時間の短縮や全体の労働時間の短縮」（男性 17.2%、女性 32.9%）については、女性が高く男性が低かった。逆に、「良質な住宅の供給（職住接近、子育て家族向き）」（男性 27.4%、女性 8.6%）、「子どもに安全な遊び場や文化・スポーツ・自然などの活動体験メニューの充実」（男性 40.9%、女性 25.1%）は男性に高い傾向がみられた。

7.情報環境の状況（コンピュータゲームとビデオ鑑賞・OA機器のストレス・使用通信機器）

コンピュータゲームで遊ぶ状況は、「ほとんど遊ばない」（77.0%、男性 65.8%、女性 82.7%）が約8割を占め、次いで「時々遊ぶ」（19.2%）であった。男女別では、男女とも「ほとんど遊ばない」が多かったが、「時々遊ぶ」（男性 28.5%、女性 14.4%）と回答したものは男性が少し多かった（表 19）。

ビデオ鑑賞の状況は、「時々」（56.6%、男性 60.6%、女性 54.8%）が最も多く、次いで「ほとんどなし」（38.5%、男性 35.0%、女性 40.2%）で、コンピュータゲームより多く利用されていたが、よく利用するものは少なかった（表 20）。

コンピュータゲームやビデオ鑑賞の頻度と子育て環境についての意見では、「一人遊びが増えたことは、子どもにとって好ましくないことだ」と回答した群で、回答者本人がコンピュータゲームで遊ぶ頻度が少なくなる傾向を示した。ビデオ鑑賞ではあまり、変化は見られなかった（表 21、表 22）。

コンピュータで遊ぶと回答した者に、その利点を複数回答でたずねた結果は、「人・子どもと共通の話題ができてよい」（46.9%、男性 36.8%、女性 56.9%）が最も多く、次いで「ストレス解消になる」（38.1%、男性 36.8%、女性 39.2%）、以下、「趣味の世界にひたれるのがよい」（13.4%、男性 18.9%、女性 8.4%）、「他にやることがないのでやっている」（11.7%、男性 18.0%、女性 6.0%）、「人に関わらず、一人で楽し

めるのがよい」（11.1%、男性 13.6%、女性 8.8%）の順であった（表 23）。子どもの数別に遊ぶ利点の比率を比べると、子ども数が増えると「人・子どもと共通の話題ができてよい」をあげるものの割合が高くなる傾向がみられた（表 24）。

ビデオ鑑賞する者に、その利点を複数回答でたずねた結果は、「人・子どもと共通の話題ができてよい」（39.3%、男性 29.7%、女性 44.4%）が最も多く、次いで「趣味の世界にひたれるのがよい」（36.3%、男性 41.2%、女性 33.6%）以下、「ストレス解消になる」（24.3%、男性 24.3%、女性 24.3%）、「人に関わらず、一人で楽しめるのがよい」（12.4%、男性 12.1%、女性 12.5%）、「他にやることがないのでやっている」（10.9%、男性 12.4%、女性 10.0%）の順であった（表 25）。男女別では、男性は「趣味の世界にひたれるのがよい」が最も高く、女性と大きく異なっていた。

「仕事等でOA機器（パソコンやワープロ）を使うこと」についての心配の有無をたずねると、「心配あり」（18.2%、男性 23.2%、女性 15.6%）で、全体に少なかった。男女別では若干男性が高かった（表 26）。

「心配ごとあり」と回答した415名にそのストレスの程度をたずねると、「少し感じる」（59.8%、男性 61.2%、女性 58.6%）が最も多く、次いで「かなり感じる」（21.7%、男性 21.9%、女性 21.5%）、「非常に感じる」（9.6%、男性 7.3%、女性 11.4%）、「ほとんど感じない」（6.3%、男性 7.3%、女性 5.5%）の順であった（表 27）。

仕事以外でプライベートに使用している通信機器の状況をたずねた結果は、「パソコン通信やインターネット」使用者（11.6%、女性 6.1%、男性 22.7%）は約1割であった。男女別では、女性に比べ、男性はかなり高かった（表 28）。「携帯電話・PHS・ポケベル」の使用者（51.6%、男性 57.2%、女性 48.8%）は2人に1人と高い利用率を示した（表 29）。年齢別にみると、「パソコン通信・インターネット」「携帯電話・PHS・ポケベル」では、両者共年齢による使用度には、はっきりした差はなかった（表 30、表 31）。

「パソコン通信・インターネット」利用者を学歴別にみると、高学歴に高い傾向がみられた（表 32、表 33）。

8.相談相手と情報源

心配事の相談相手の有無は、全体で90.9%は相談相手がいると回答していた。男女別では男性83.5%、女性94.7%と女性のほうが高かった（表 34）。

結婚・出産・育児等に関する情報源で、よく利用

する情報源を3つ選んでもらった結果、第1位は、「書籍、雑誌、新聞、ビデオ」(73.3%、男性78.5%、女性70.7%)で、次いで「テレビ、ラジオ」(51.0%、男性60.4%、女性46.3%)、「家族・親戚」(46.6%、男性44.8%、女性47.5%)、「友人」(43.0%、男性25.1%、女性52.0%)の順に高かった(表35)。3割以下の項目は、「職場で」(26.3%、男性24.8%、女性27.0%)、「医療、保健、福祉関係機関(病院、保健所、役所など)」(20.5%、男性21.9%、女性19.8%)、「市区町村の広報紙」(8.7%、男性8.7%、女性8.8%)、「学校教育の中で」(6.9%、男性2.5%、女性9.0%)、「サークルなど、社会的活動の場で」(5.8%、男性3.7%、女性6.8%)、「その他」(1.0%、男性0.5%、女性1.3%)、「パソコン通信またはインターネット」(0.7%、男性1.2%、女性0.4%)、「電話相談」(0.3%、男性0.1%、女性0.4%)であった。男女別では、第1位から4位までは同じ情報源であったが、男性では「書籍、雑誌、新聞、ビデオ」、「テレビ、ラジオ」、「家族・親戚」、「友人」の順であったのに対し、女性では「書籍、雑誌、新聞、ビデオ」が同順位であったが、次いで「友人」、「家族・親戚」、「テレビ、ラジオ」の順で、男性第4位の「友人」(男性25.1%、女性52.0%)が、女性では第2位であった。

IV. 考察

男性の場合、大学を卒業して25歳～29歳で結婚、女性では高校卒業後20歳～24歳で結婚している者が多く、希望する子ども数は3人、現在の子どもの数は2人であった。休日には子どもと過ごす者が多く、食事は家族一緒に楽しいと考えており、子ども中心の生活が伺える。

子育てについては、「私は、自分の子どもはかわいいと思う」のほか、「子育てには面白いことや発見がある」「子どもは、人々にうるおいや活力を与える存在である」などプラスのイメージをもって子育てをしている様子が伺われ、また、「子ども産業(紙おむつ、離乳食、育児用品など)が盛んになってきたので、育児は以前より楽になった」と育児の負担は軽減されたと考えているようである。しかし、「幼いころから習い事や塾に通わせることが、過熱しすぎている」「親が安心して、子どもを遊ばせることのできる所が少なくなっている」「乳幼児を連れて外出するには、交通機関や公共施設に不都合が多い」など、現実の環境はまだ改善の必要性があることを示している。

公的サービスに対する希望においても、圧倒的に

多かったのは経済的援助であるが、「ゆとりある学校教育の推進」が約40%、「子どもに安全な遊び場や文化・スポーツ・自然などの活動体験メニューの充実」が約30%と子どもにとっての環境が十分であると考えていない。今後、育児環境に対するより具体的な意見を収集する必要性があるだろう。

情報関係の項目で目立った点は、まず回答者の2人に1人は、携帯電話またはPHS・ポケベルを使用していることである。平成9年度通信利用動向調査⁹⁾によれば、携帯電話(46.0%)、PHS(15.3%)の保有率で、前年度の携帯電話(24.9%)、PHS(7.8%)から急上昇していることが示されている。本調査結果の51.6%とあわせて検討すれば、かなりの普及率であることがわかる。また、通信利用動向調査で、主な使用者は20代から40代となっており、本調査の回答者の年代と一致している。携帯電話やPHSの普及は、即時性や利便性を向上させるが、コミュニケーション形態が変化することが考えられる。従って、子育てにおけるコミュニケーション形態の変化に着目する必要性があるだろう。

「パソコン通信・インターネット」については11.6%で、通信利用動向調査の「パソコン通信(5.7%)、インターネット(6.4%)」を越えていた。また、同調査の年齢別「パソコン通信」は、20歳代(7.7%)、30歳代(10.9%)、「インターネット」は20歳代(8.9%)、30歳代(12.4%)で今回の調査結果と同様であった。数年で10人に1人の利用者になっていることから、今後は急激に増加することが予測される。

インターネットの普及、これらの新しいメディア使用は、注意が必要である。近年個人情報の取り扱いや通信環境でのプライバシーの安全性が問題になっている。また、インターネットにおける情報は最新情報がいち早く入手可能ではあるが、質の低い情報もあり、内容については十分な検証が必要である。良質な情報所在をインフォメーションすることが必要となるであろう。

コンピュータゲームなど一人遊びについて、「好ましくない」という意見は約8割であったが、総務庁が行なった「第3回情報化社会と青少年に関する調査報告」²⁾では、「テレビゲームやパソコンのゲームソフトで遊ぶことは、子どもの人格形成に悪影響を及ぼす」(そう思う15.1%、そうは思わない47.9%、どちらともいえない37.0%)となっていた。好ましくないのは「一人遊び」についての意見であると考えることができよう。コンピュータの利用の長所、短所についての意見については、今後の詳細な研究が必要であろう。

利用率が高く、「共通の話題」あるいは「趣味の世

界」を利点とするビデオ鑑賞は、情報提供メディアとして有効性は高い。しかし、一般のビデオソフトの質や量を超える新しい視点からのプログラム開発が必要である。インターネットと組み合わせたビデオ・オン・デマンドによる情報提供サービス等が考えられる。

情報源については、男性が「書籍、雑誌、新聞、ビデオ」、「テレビ、ラジオ」とマスメディア中心であった。しかし、女性では第1位の「書籍、雑誌、新聞、ビデオ」は同じであったが、第2位に「友人」があがっている。ベネッセ教育研究所が行なった「子育て生活基本調査」³⁾でも母親の情報源の第一位は「近所の友人・知人」(73.8%)であった。子育てに関する情報関係の事柄は、「友人」を抜きにして考えることは不可能であることを示している。つまり、友人情報や口コミを意識した情報提供やコミュニケーションのあり方を検討する必要がある。かつての井戸端会議は消失しつつあるが、代わって携帯電話や PHS の即時性や利便性を生かした「顔を合わせない井戸端会議」が進むと考えられる。携帯電話や PHS の1対1のコミュニケーション(個別的井戸端会議)から、携帯電話や PHS にインターネットを加えて使用する「多対多」のコミュニケーション(仮想井戸端会議)に進むことが、今後予想される。

「パソコン通信またはインターネット」の利用者は全体で0.7%(男性1.2%、女性0.4%)で、前述の「子育て生活基本調査」でも「パソコン通信またはインターネット」は0.7%であった。まだ比率は小さいが、今後のパソコンの家電化、テレビや電話との一体化が進めば、利用者は増加すると予測される。情報提供側から見れば、約10人に1人は利用できる環境になってきていることは、今後の情報提供サービスの媒体として有力であると思われる。また、一部の人たちの情報交換の場から、より広範囲な人

たちへの情報発信の場が変わっていくと考えられる。その活用方法が今後の課題となろう。

V. 結語

情報化社会の中で、子育てに関する情報をどう提供すべきか、今後の課題である。近年情報環境は大きく変化してきたが、子育て層の情報源はやはり、「近所の友人」が主であることが確認できた。しかし、実際のコミュニケーションの取り方は、情報機器の変化で大きく変わることが考えられる。

また、情報提供側として、どういう形で、方法で、良質の情報を提供するのか、指針を示すのが今後の大きな課題である。コンピュータに対する考え方や実際の情報収集での活用度、コミュニケーション形態の変化を探っていく必要がある。

次年度は、子育てをしている人たちのコンピュータをはじめとする情報機器使用状況の実際を探るとともに、インターネットを中心に流れている育児や子育て情報の質と量について明らかにしたい。

【文 献】

- 1) 郵政省：第8回(平成9年度)通信利用動向調査：1998
- 2) 総務庁青少年対策本部：情報化社会と青少年―「第3回情報化社会と青少年に関する調査」報告書：1996
- 3) ベネッセ教育研究所：「子育て生活基本調査」報告書―園児、小学校1・2年生の母親を対象に―：研究所報 Vol.14, 1998

表1 年齢

		性別				合計	
		男性		女性			
		人	%	人	%	人	%
年齢	20～24歳	4	.5%	21	1.4%	25	1.1%
	25～29歳	80	10.4%	251	16.6%	331	14.5%
	30～34歳	337	43.9%	578	38.1%	915	40.1%
	35～39歳	347	45.2%	666	43.9%	1013	44.4%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表2 学歴

		性別				合計	
		男性		女性			
		人	%	人	%	人	%
学歴	中学校	4	.5%	11	.7%	15	.7%
	高校	131	17.1%	822	54.2%	953	41.7%
	専門・専修学校	46	6.0%	237	15.6%	283	12.4%
	短大	11	1.4%	315	20.8%	326	14.3%
	大学	521	67.8%	113	7.5%	634	27.8%
	大学院	45	5.9%	6	.4%	51	2.2%
	その他	9	1.2%	7	.5%	16	.7%
	NA	1	.1%	5	.3%	6	.3%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表3 職業

		性別				合計	
		男性		女性			
		人	%	人	%	人	%
職業	管理職・経営者	232	30.2%	149	9.8%	381	16.7%
	勤め人	481	62.6%	1041	68.7%	1522	66.6%
	専業主婦			179	11.8%	179	7.8%
	その他	13	1.7%	32	2.1%	45	2.0%
	NA	42	5.5%	115	7.6%	157	6.9%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表4 居住地

		性別				合計	
		男性		女性			
		人	%	人	%	人	%
居住地	北海道・東北	110	14.3%	195	12.9%	305	13.4%
	関東	444	57.8%	285	18.8%	729	31.9%
	中部	94	12.2%	626	41.3%	720	31.5%
	近畿	32	4.2%	113	7.5%	145	6.3%
	中国・四国	42	5.5%	110	7.3%	152	6.7%
	九州・沖縄	45	5.9%	183	12.1%	228	10.0%
	NA	1	.1%	4	.3%	5	.2%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表5 住居形態

		性別				合計	
		男性		女性			
		人	%	人	%	人	%
住居形態	一戸建	237	30.9%	1083	71.4%	1320	57.8%
	集合住宅	493	64.2%	409	27.0%	902	39.5%
	寮・下宿	21	2.7%	1	.1%	22	1.0%
	その他	16	2.1%	21	1.4%	37	1.6%
	NA	1	.1%	2	.1%	3	.1%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表6 同居形態

		性別				合計	
		男性		女性			
		人	%	人	%	人	%
同居 形態	自分の親と同居	82	10.7%	130	8.6%	212	9.3%
	配偶者の親と同居	30	3.9%	476	31.4%	506	22.2%
	同居していない	642	83.6%	886	58.4%	1528	66.9%
	非該当	12	1.6%	18	1.2%	30	1.3%
	NA	2	.3%	6	.4%	8	.4%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表7 睡眠時間

		性別				合計	
		男性		女性			
		人	%	人	%	人	%
睡眠時間	足りている	151	19.7%	364	24.0%	515	22.5%
	ほぼ足りている	271	35.3%	589	38.9%	860	37.7%
	すこし足りない	259	33.7%	442	29.2%	701	30.7%
	足りない	85	11.1%	120	7.9%	205	9.0%
	NA	2	.3%	1	.1%	3	.1%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表8 家族と一緒にの食事がよい

		性別				合計	
		男性		女性			
		人	%	人	%	人	%
家族と一緒にの食事がよい	そう思う	711	92.6%	1375	90.7%	2086	91.3%
	思わない	5	.7%	22	1.5%	27	1.2%
	どちらともいえない	38	4.9%	96	6.3%	134	5.9%
	NA	14	1.8%	23	1.5%	37	1.6%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表9 一人の食事はよい

		性別				合計	
		男性		女性			
		人	%	人	%	人	%
一人の食事はよい	そう思う	98	12.8%	265	17.5%	363	15.9%
	思わない	448	58.3%	784	51.7%	1232	53.9%
	どちらともいえない	201	26.2%	414	27.3%	615	26.9%
	NA	21	2.7%	53	3.5%	74	3.2%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表10 余暇を過ごす相手(複数回答)

		性別				合計	
		男性		女性		人	%
		人	%	人	%		
余暇を過ごす相手	一人で過ごす	98	12.8%	118	7.8%	216	9.5%
	親やきょうだい	65	8.5%	309	20.4%	374	16.4%
	子ども	688	89.7%	1407	92.9%	2095	91.8%
	恋人や婚約者	6	.8%	2	.1%	8	.4%
	配偶者やパートナー	584	76.1%	987	65.2%	1571	68.9%
	仕事関係の人	49	6.4%	23	1.5%	72	3.2%
	クラブやサークルの仲間	50	6.5%	64	4.2%	114	5.0%
	友人	120	15.6%	176	11.6%	296	13.0%
	その他の人	4	.5%	11	.7%	15	.7%
自由時間なし		26	3.4%	77	5.1%	103	4.5%
N=		767		1514		2281	

表11 初婚年齢

		性別				合計	
		男性		女性		人	%
		人	%	人	%		
初婚年齢	19歳以下	3	.4%	60	4.0%	63	2.8%
	20～24歳	119	15.5%	889	58.6%	1008	44.1%
	25～29歳	528	68.8%	505	33.3%	1033	45.2%
	30～34歳	108	14.1%	52	3.4%	160	7.0%
	35～39歳	7	.9%	6	.4%	13	.6%
	NA	3	.4%	4	.3%	7	.3%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表12 第1子出産年齢

		女性	
		人	%
第1子出産年齢	19歳未満	25	1.6%
	20～24歳	598	39.4%
	25～29歳	722	47.6%
	30～34歳	148	9.8%
	35～39歳	11	.7%
	NA	12	.8%
合計		1516	100.0%

表13 子ども数

		性別				合計	
		男性		女性		人	%
		人	%	人	%		
子ども数	1	343	44.7%	364	24.0%	707	31.0%
	2	341	44.4%	765	50.5%	1106	48.4%
	3	78	10.2%	350	23.1%	428	18.7%
	4	3	.4%	25	1.6%	28	1.2%
	5			3	.2%	3	.1%
	NA	3	.4%	9	.6%	12	.5%
合計		768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表14 子どもの年齢(複数回答)

		性別				合計	
		男性		女性		人	%
		人	%	人	%		
子どもの年齢	2歳未満	303	39.6%	295	19.6%	598	26.3%
	2歳～4歳	319	41.7%	488	32.4%	807	35.5%
	4歳～就学前	243	31.8%	596	39.6%	839	36.9%
	小学校	240	31.4%	784	52.1%	1024	45.1%
	中学校	30	3.9%	265	17.6%	295	13.0%
	高校	2	.3%	83	5.5%	85	3.7%
	その他	1	.1%	14	.9%	15	.7%
	N=	765	148.8%	1506	167.7%	2271	161.3%

表15 子育て観*

	性別				合計	
	男性		女性		人	%
	人	%	人	%		
1 自分の生命を伝える	566	73.7%	1037	68.4%	1603	70.2%
2 社会の次世代の担い手	685	89.2%	1272	83.9%	1957	85.7%
3 人々にうるおいや活力を与える	727	94.7%	1437	94.8%	2164	94.7%
4 子育ては面白い	739	96.2%	1460	96.3%	2199	96.3%
5 生み育てて一人前	412	53.6%	673	44.4%	1085	47.5%
6 犠牲が多い	433	56.4%	763	50.3%	1196	52.4%
7 子どもの世話は男親もできる	359	46.7%	1082	71.4%	1441	63.1%
8 自分の子どもはかわいい	744	96.9%	1461	96.4%	2205	96.5%
9 子どもが好き	644	83.9%	1071	70.6%	1715	75.1%

※. 男 N=768 女 N=1516 男女 N=2284

表16 理想の子ども数

		性別				合計	
		男性		女性		人	%
		人	%	人	%		
理想の子ども数	欲しくない	3	.4%	16	1.1%	19	.8%
	1人	23	3.0%	41	2.7%	64	2.8%
	2人	379	49.3%	546	36.0%	925	40.5%
	3人	306	39.8%	703	46.4%	1009	44.2%
	4人以上	28	3.6%	95	6.3%	123	5.4%
	成り行きに任せる	13	1.7%	40	2.6%	53	2.3%
	わからない	8	1.0%	22	1.5%	30	1.3%
	事情があってあきらめる	2	.3%	24	1.6%	26	1.1%
	NA	6	.8%	29	1.9%	35	1.5%
	合計	768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表17 育児環境※

	性別				合計	
	男性		女性		人	%
	人	%	人	%		
1 子ども産業の発達で楽になった	623	81.1%	1344	88.7%	1967	86.1%
2 子育て就業は不利益を招く	408	53.1%	739	48.7%	1147	50.2%
3 仕事育児の両立制度が不十分	625	81.4%	1173	77.4%	1798	78.7%
4 健診や保健指導サービスがよかった	259	33.7%	605	39.9%	864	37.8%
5 児童福祉施設が整った	234	30.5%	547	36.1%	781	34.2%
6 乳幼児との外出は不都合が多い	496	64.6%	936	61.7%	1432	62.7%
7 安心して子どもを遊ばせるところが少	622	81.0%	1243	82.0%	1865	81.7%
8 子育てに思いやりや共感がない	395	51.4%	727	48.0%	1122	49.1%
9 一人遊びが増えたことは好ましくない	604	78.6%	1229	81.1%	1833	80.3%
10 習い事や塾に過熱している	652	84.9%	1241	81.9%	1893	82.9%

※. 男 N=768 女 N=1516 男女 N=2284

表18 希望する施策(複数回答)

	性別				合計	
	男性		女性		人	%
	人	%	人	%		
育児休業中の所得保障	132	17.6%	605	41.3%	737	33.3%
勤務・労働時間の短縮	129	17.2%	482	32.9%	611	27.6%
保育施設・サービスの充実	246	32.9%	619	42.3%	865	39.1%
母子医療・健康支援体制の充実	189	25.3%	254	17.3%	443	20.0%
良質な住宅の供給	205	27.4%	126	8.6%	331	15.0%
遊び場や活動体験メニューの充実	306	40.9%	367	25.1%	673	30.4%
ゆとりある学校教育	314	42.0%	622	42.5%	936	42.3%
子育て支援・相談体制	58	7.8%	82	5.6%	140	6.3%
経済負担の軽減	572	76.5%	1145	78.2%	1717	77.6%
その他	17	2.3%	17	1.2%	34	1.5%
N=	748		1464		2212	

表19 コンピュータゲームで遊ぶ 状況

	性別				合計	
	男性		女性		人	%
	人	%	人	%		
ほぼ毎日	19	2.5%	20	1.3%	39	1.7%
休みの日はいつも	22	2.9%	8	.5%	30	1.3%
時々	219	28.5%	219	14.4%	438	19.2%
ほとんどなし	505	65.8%	1254	82.7%	1759	77.0%
NA	3	.4%	15	1.0%	18	.8%
合計	768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表20 ビデオ鑑賞の状況

	性別				合計	
	男性		女性		人	%
	人	%	人	%		
ほぼ毎日	6	.8%	16	1.1%	22	1.0%
休みの日はいつも	28	3.6%	43	2.8%	71	3.1%
時々	461	60.0%	831	54.8%	1292	56.6%
ほとんどなし	269	35.0%	610	40.2%	879	38.5%
NA	4	.5%	16	1.1%	20	.9%
合計	768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表21 コンピュータゲームの頻度と子育て環境に対する意見

	コンピュータゲームなどのひとり遊びが増えたことは、子どもにとって好ましくないことだ(子育て環境)								合計	
	そう思う		そうは思わない		わからない		NA		人	%
	人	%	人	%	人	%	人	%		
ほぼ毎日	20	51.3%	13	33.3%	4	10.3%	2	5.1%	39	100.0%
休みの日はいつも	20	66.7%	8	26.7%	2	6.7%			30	100.0%
時々	308	70.3%	71	16.2%	56	12.8%	3	.7%	438	100.0%
ほとんどなし	1472	83.7%	144	8.2%	128	7.3%	15	.9%	1759	100.0%
NA	13	72.2%			3	16.7%	2	11.1%	18	100.0%
合計	1833	80.3%	236	10.3%	193	8.5%	22	1.0%	2284	100.0%

表22 ビデオ鑑賞の頻度と子育て環境に対する意見

	コンピュータゲームなどのひとり遊びが増えたことは、子どもにとって好ましくないことだ(子育て環境)								合計	
	そう思う		そうは思わない		わからない		NA		人	%
	人	%	人	%	人	%	人	%		
ほぼ毎日	17	77.3%	3	13.6%	2	9.1%			22	100.0%
休みの日はいつも	54	76.1%	10	14.1%	5	7.0%	2	2.8%	71	100.0%
時々	1026	79.4%	135	10.4%	120	9.3%	11	.9%	1292	100.0%
ほとんどなし	722	82.1%	86	9.8%	65	7.4%	6	.7%	879	100.0%
NA	14	70.0%	2	10.0%	1	5.0%	3	15.0%	20	100.0%
合計	1833	80.3%	236	10.3%	193	8.5%	22	1.0%	2284	100.0%

表 23 コンピュータゲームで遊ぶ利点(MA)

	性別				合計	
	男性		女性		人	%
	人	%	人	%		
ひとりで楽しめる	31	13.6%	22	8.8%	53	11.1%
共通の話題	84	36.8%	140	56.0%	224	46.9%
趣味の世界	43	18.9%	21	8.4%	64	13.4%
やることがない	41	18.0%	15	6.0%	56	11.7%
ストレス解消	84	36.8%	98	39.2%	182	38.1%
その他	12	5.3%	19	7.6%	31	6.5%
合計	228	100.0%	250	100.0%	478	100.0%

表24子どもの数別コンピュータゲームで遊ぶ利点(MA)

	コンピュータゲームで遊ぶ利点												合計		
	ひとりで楽しめる		共通の話題		趣味の世界		やることがない		ストレス解消		その他				
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
子ども数	1	16	11.4%	33	23.6%	26	18.6%	29	20.7%	60	42.9%	12	8.6%	140	100%
	2	28	11.4%	131	53.3%	31	12.6%	18	7.3%	94	38.2%	16	6.5%	246	100%
	3	7	8.2%	57	67.1%	6	7.1%	7	8.2%	28	32.9%	3	3.5%	85	100%
	4			3	75.0%			1	25.0%					4	100%
	5														
NA															
	NA	2	66.7%			1	33.3%	1	33.3%					3	100%
合計		53	11.1%	224	46.9%	64	13.4%	56	11.7%	182	38.1%	31	6.5%	478	100%

表25 ビデオ鑑賞する利点(MA)

	性別				合計	
	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
ひとりで楽しめる	53	12.1%	101	12.5%	154	12.4%
共通の話題	130	29.7%	358	44.4%	488	39.3%
趣味の世界	180	41.2%	271	33.6%	451	36.3%
やることがない	54	12.4%	81	10.0%	135	10.9%
ストレス解消	106	24.3%	196	24.3%	302	24.3%
その他	24	5.5%	53	6.6%	77	6.2%
合計	437	100.0%	806	100.0%	1243	100.0%

表26 OA機器使用の心配ごとの有無

	性別				合計	
	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
あり	178	23.2%	237	15.6%	415	18.2%
なし	573	74.6%	1036	68.3%	1609	70.4%
NA	17	2.2%	243	16.0%	260	11.4%
合計	768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表27 OA機器のストレスの程度

	性別				合計	
	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
非常に感じる	13	7.3%	27	11.4%	40	9.6%
かなり感じる	39	21.9%	51	21.5%	90	21.7%
少し感じる	109	61.2%	139	58.6%	248	59.8%
ほとんどなし	13	7.3%	13	5.5%	26	6.3%
NA	4	2.2%	7	3.0%	11	2.7%
合計	178	100.0%	237	100.0%	415	100.0%

表28 パソコン通信・インターネット

	性別				合計	
	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
使っている	174	22.7%	92	6.1%	266	11.6%
使っていない	587	76.4%	1371	90.4%	1958	85.7%
NA	7	.9%	53	3.5%	60	2.6%
合計	768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表29 携帯電話・PHS・ポケベル

	性別				合計	
	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
使っている	439	57.2%	740	48.8%	1179	51.6%
使っていない	320	41.7%	758	50.0%	1078	47.2%
NA	9	1.2%	18	1.2%	27	1.2%
合計	768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表30 年齢別パソコン通信・インターネット使用状況

		パソコン通信・インターネット						合計	
		使っている		使っていない		NA		人	%
		人	%	人	%	人	%		
男性	年齢 20～24歳			4	100.0%			4	100.0%
	25～29歳	22	27.5%	57	71.3%	1	1.3%	80	100.0%
	30～34歳	70	20.8%	264	78.3%	3	.9%	337	100.0%
	35～39歳	82	23.6%	262	75.5%	3	.9%	347	100.0%
女性	年齢 20～24歳			20	95.2%	1	4.8%	21	100.0%
	25～29歳	18	7.2%	222	88.4%	11	4.4%	251	100.0%
	30～34歳	34	5.9%	531	91.9%	13	2.2%	578	100.0%
	35～39歳	40	6.0%	598	89.8%	28	4.2%	666	100.0%

表31 年齢別携帯電話・PHS・ポケベルの使用状況

		携帯電話・PHS・ポケベル						合計	
		使っている		使っていない		NA		人	%
		人	%	人	%	人	%		
男性	年齢 20～24歳	2	50.0%	2	50.0%			4	100.0%
	25～29歳	56	70.0%	22	27.5%	2	2.5%	80	100.0%
	30～34歳	190	56.4%	142	42.1%	5	1.5%	337	100.0%
	35～39歳	191	55.0%	154	44.4%	2	.6%	347	100.0%
女性	年齢 20～24歳	11	52.4%	10	47.6%			21	100.0%
	25～29歳	121	48.2%	127	50.6%	3	1.2%	251	100.0%
	30～34歳	262	45.3%	309	53.5%	7	1.2%	578	100.0%
	35～39歳	346	52.0%	312	46.8%	8	1.2%	666	100.0%

表32 学歴別パソコン通信・インターネット使用状況

		パソコン通信・インターネット						合計	
		使っている		使っていない		NA		人	%
		人	%	人	%	人	%		
学歴	中学校			15	100.0%			15	100.0%
	高校	50	5.2%	867	91.0%	36	3.8%	953	100.0%
	専門・専修学校	24	8.5%	252	89.0%	7	2.5%	283	100.0%
	短大	24	7.4%	291	89.3%	11	3.4%	326	100.0%
	大学	137	21.6%	491	77.4%	6	.9%	634	100.0%
	大学院	25	49.0%	26	51.0%			51	100.0%
	その他	5	31.3%	11	68.8%			16	100.0%
	NA	1	16.7%	5	83.3%			6	100.0%
合計		266	11.6%	1958	85.7%	60	2.6%	2284	100.0%

表34 心配ごとの相談相手の有無

	性別				合計	
	男性		女性			
	人	%	人	%	人	%
いる	641	83.5%	1436	94.7%	2077	90.9%
いない	112	14.6%	69	4.6%	181	7.9%
NA	15	2.0%	11	.7%	26	1.1%
合計	768	100.0%	1516	100.0%	2284	100.0%

表35 結婚・出産・育児等に関する情報源(3つ選択)

		性別				合計	
		男性		女性		人	%
		人	%	人	%		
結婚・ 出産・ 育児の 情報源	テレビ・ラジオ	453	60.4%	693	46.3%	1146	51.0%
	書籍、雑誌、新聞、ビデオ	589	78.5%	1058	70.7%	1647	73.3%
	医療、保健、福祉関係機関	164	21.9%	297	19.8%	461	20.5%
	市区町村の広報紙	65	8.7%	131	8.8%	196	8.7%
	家族・親戚	336	44.8%	711	47.5%	1047	46.6%
	友人	188	25.1%	779	52.0%	967	43.0%
	職場で	186	24.8%	404	27.0%	590	26.3%
	サークルや社会活動の場で	28	3.7%	102	6.8%	130	5.8%
	学校教育の中で	19	2.5%	135	9.0%	154	6.9%
	パソコン通信やインターネット	9	1.2%	6	.4%	15	.7%
	電話相談	1	.1%	6	.4%	7	.3%
	その他	4	.5%	19	1.3%	23	1.0%
合計		750	272.3%	1497	290.0%	2247	284.1%